

JOMA通信



Japan Overseas Missions Association 海外宣教連絡協力会 公報

No. 80号

私たちの主はすべての人の主 ～世界宣教の意義～

高田聖書教会牧師
南米宣教会理事
2017年度JOMA会計担当

塚田 献



「同じ主がすべての人の主であり、ご自分を求めるすべての人に豊かに恵みをお与えになるからです。」

ローマ人への手紙10章12節

キリストは、人種、民族にかかわらず、すべての人の主となり、私たちにまことのいのちを与えるために十字架のみわざを成し遂げよみがえられました。そして、教会はあらゆる国々の人々にこの福音を携えゆくように命じられました。ですから、今の時代の私たちも、この福音を宣べ伝えていく務めが教会に託されていることを自覚するものであります。昨今この日本においては、牧師、伝道者となる献身者の減少が懸念されるとともに、宣教師として海外に遣わされていく働き人の減少も大きな課題とされています。それでもなお、宣教師が起こされていくことを祈り求め、またその働きに教会が積極的に携わっていかねばならない意義を考えさせられます。

その一つは、私たちの主がすべての国々の人々の主であることをいつも覚えることにあります。私たちは通常、自分たちの住む地域で、同じく主に救われた人々と共に、礼拝をささげ、この地に主のみこころがなされるようにと歩んでいます。と同時に主の働きは全世界に及ぶもので、主のみわざは世界中のあらゆる地で行われているダイナミックなものであります。教会と宣教団体を通して派遣されていく宣教師の働きに携わる中で、私たちは一つのキリストのからだに連なり、様々な地で神の宣教のみわざがなされていることの中に、主の熱心が今も溢れていることを知ります。とかく私たちは近視眼的になりやすく、その中で主のみわざを測りやすく、主はどこにおられるのかとつぶやきやすいものです。世界宣教の主のみわざを喜び支えつつ、同じ主が今も私たちのうちに働いておられることを覚えることは、私たちの信仰を強く励ますものとなることを信じます。

二つ目は、キリストがなされた救いのみわざの実を私たちのうちにもたらそうとしておられることにあります。キリストの救いは単に個人のたましいの救いに留まらず、「キリストこそ私たちの平和」と述べられている通りに、「二つのものを一つのからだ」としてくださり、「平和」を成し遂げるためのものでした。それは敵対している者たちの敵意を取り除くものであり、あらゆる文化、言語、その中で培われる習慣やそれぞれの持つ社会的な価値観さえも超えて「神の国はあなたがたのうちにある」と言わしめるものであります。世界のグローバル化の波に飲み込まれるや否や、急激に人種、民族の分断を図り、自分たちの利益がまず大事だと叫ばれる世界情勢の中にあります。平和を求めることの尊さが失われていくことに危惧を抱きます。だからこそ、神が唯一であるからこそすべての人の主であり得ること、またキリストこそが、私たちのうちに真の平和をもたらすことができることが、世界宣教の働きの中で明らかにされ、証されていくのだと思います。

直接的な世界宣教の働きをしていなくても、現在日本には様々な国から移り住む人たちが近くにいる、地域教会でもそのような方々と接点が与えられる時代になりました。その与えられる交わりの中で様々な違いを感じながらも「二つのものを一つに」する神のみわざの中に招かれています。小さな交わりであっても、互いの国のために祈り、その違いから学び合い、福音の真理のうちとともに立つよう導かれていくことは、まさに主の平和のみわざの実現なのだと思います。このように地域教会でも福音の真の平和が実現されていくために、私たちが様々な国でなされている宣教師の働きを覚えることが大切なことだと思うのです。多くの困難の中で様々な地域で働かれている宣教師の方々の働きを覚え祈り支え、さらにこの日本の地から世界に遣わされていく宣教師が起こされることを求めつつ、キリストのからだに連なる者の務めをともに果たしていきましょう。

日本ウィクリフ聖書翻訳協会

総主事 松丸 嘉也

聖書を全ての言語に！——— これは、単なるキャッチコピーではなく、私たちウィクリフが、いや全てのクリスチャン・教会が応えなければならない、私たちへの神様からのチャレンジであると思うのです。そして聖書翻訳宣教の必要性和緊急性を踏まえての神様からのチャレンジは、『ビジョン2025』にまとめられています。

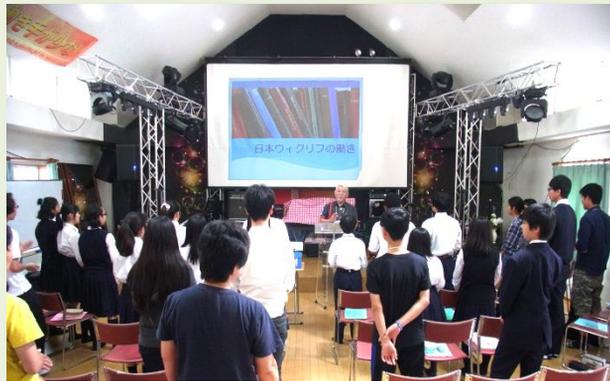
「2025年までに世界中のパートナー(クリスチャン・キリスト教会・宣教団体など)と共に、聖書翻訳が必要な全ての言語において、そのプロジェクトを開始する。」

2017年11月現在の資料(“progress.Bible.October2017” — ウィクリフ関連団体提供)によると、地球上で話されている言語の総数7,099言語のうち、新約・旧約両方の聖書があるのは、670言語に過ぎません。この数字の意味することは、全巻揃った聖書が存在しないために神のメッセージを母語 — ”Heart Language” “心の言語”とも呼ばれます — で読んだり聞いたりすることの出来ない人々が、世界中で15億人もいるということです。これは衝撃的な数字ではないでしょうか？全巻揃った新約聖書、あるいは旧約を含む部分訳や聖書物語がある言語数を数えても、2,642言語しかありません。本当に感謝すべきことに、日本では日本語の聖書が全巻揃っているばかりでなく、昨年末には新たな訳の聖書が出版され、更に別の訳も準備されています。キリスト教書店に限らず一般書店でも聖書を手にすることができます。日本に住む、あるいは日本語を母語とする私にも福音が届き、救いにあずかり、キリストにつながる者とされた大きな要因に、「日本語聖書があったからだ」と言う事は決して言い過ぎではないでしょう。私たちはこの恵みと祝福をあまりにも当然のこととして受け止め、聖書つまり神のみことばに対する喜びと感謝をつい忘れがちになっているのかも知れません。



KGK70周年でウィクリフブースに立つ松丸

現在、日本ウィクリフが所属する世界ウィクリフ同盟(Wycliffe Global Alliance)が中心となって取り組んでいる聖書翻訳・言語プロジェクトは、2,584言語あります。これに加えて少なくともあと1,633言語に聖書翻訳の必要があるという調査結果が出ています。(資料同)



ウィクリフ・デイ・キャンプの様子

日本ウィクリフはこれらの具体的な数字を伴う神様からのチャレンジに、個々人の宣教師や宣教団体としてだけではなく、日本のクリスチャン・教会と共に応えていきたいと願い、祈りをもって活動しています。聖書翻訳の働きは、単一のものではありません。言語学や文化人類学等の研究はもちろん、識字(読み書き)教育、聖書を活用し霊的成長につながるプログラム、民族芸術・伝統芸能(エスノアーツ)を奨励しそれらを用いる働き、日本と現地の教会に仕えることなどを通して世界の教会が福音を伝える働きなどに関わり、お手伝いをしています。(少なくともそのように願っています。)また、翻訳プロジェクトを支える多岐にわたる奉仕(者)を必要としています。例えば、宣教地で生活する宣教師子女の教育者、医師や看護師、建築・自動車・飛行機・コンピュータ・IT関係の技術者、事務系の奉仕者などですが、これ以外にも数多くの働きが必要です。

国内(外)の具体的な活動としては、宣教地体験旅行(フィリピン・3月)、異文化宣教セミナー(軽井沢・9月)、識字教育セミナー(8月・東京)、ジュニア・キャンプ(1日出張プログラム)、ウィクリフ・カフェ(各地・年数回)等のプログラムを毎年のように開催しています。また、日本各地で「ウィクリフ祈りの輪」という祈り会が行なわれています。さらに、事務局を中心に様々なボランティアを通してウィクリフを支え、つながってくださっている方々もいます。詳細につきましては、ウィクリフのホームページや機関紙「聖書ほんやく」等に適宜掲載いたします。また、必要に応じてウィクリフ事務局へも問い合わせくださると嬉しく思います。

2018年日本ウィクリフは創立50周年を迎えています。神様からの呼びかけと促しに応え、その導きに従ってきた歩みを振り返り、宣教の主である神様と、共に歩み祈り支えて来てくださった諸教会や皆さまに感謝し、新たなチャレンジをいただきたいと願っています。記念集会は11月10日(土)(御茶の水クリスチャンセンター)を予定しています。

今後とも祈りをもって共に歩んで参りたいと願っています。どうぞよろしくお願い致します。主の恵みと祝福を祈りつつ。



完成したイペリ語の新約聖書を手にした人(パプアニューギニア)

お祈りください・・・

- ◆日本ホーリネス教団
 - * ロシアの河瀬愛子先生の働きが守られ、祝福されるように。
 - * 新しい宣教師を送り出すことができるように。

- ◆OMF日本委員会
 - * 夏に二つの短期宣教プログラムを予定しています。M国ツアー(8月20日-8月27日)、V国ツアー(9月6日-9月13日)。参加者によりチャレンジが与えられるように。参加者募集中です。詳しくは菅家容子(jp.hcsac@omfmail.com)までお問い合わせください。
 - * OMF日本委員会の新しい総主事として佐味湖幸師が2019年4月から着任する予定です。よい引継ぎと佐味師の準備のために。また、新しい総主事が働きやすい体制を整えていくことができますように。
 - * 日本の教会にリバイバルが訪れますように。新しい宣教師が与えられますように。経済的な必要が満たされますように。

- ◆OM日本
 - * 各宣教地、福音船「ロゴスホープ号」に遣わされている宣教師達の霊性と働きが祝されるように。(現在4名と1組の宣教師を派遣しています。)
 - * 世界宣教の前進の為、これまでOMIに関わった方々へのフォローアップの為に、国内で活動するチームが整えられるように。
 - * 新ビジョン、新代表(スミスドルフ・スティーブン宣教師)の元、一致した働きが進められ、地域の教会へ益々の祝福となることができるよう。
 - * 2018年3月24日(土)14時~16時 草苑保育専門学校(4F AB教室)でOM日本交流会に多くの参加者が与えられるように。

- ◆アジア・フォー・ジーザス・ジャパン
 - * 各宣教師の支援態勢が充実するように。
 - * フィールド・コーディネーターの佐藤宣教師・ジョンホア師家族が支えられるように。
 - * 下山宣教師の新しい働きが祝福されるように。
 - * 平岡宣教師の高齢者と介護者向けミニストリーを通して救われる人々が起こされますように。
 - * 鈴木宣教師の少数民族ミニストリーが祝福されるように
 - * AFJジャパン委員会と事務局を通して、中国宣教の現状が日本全国の諸教会に理解されるように。
 - * 新しい宣教師候補が与えられるように。

協力会員募集

祈っておりました、事務局スタッフもあたえられ、JOMAの運営体制も整いつつあります。そこで、2018年度は、各宣教の地での戦いにある先生方にとって、また、背後にある宣教団体・教派団体や多くの教会の皆様にとって、JOMAがより意義のあるネットワークや情報をご提供する「活動するJOMA」へと変革をする年としたいと考えております。そのために、さらなる必要を満たすべく、JOMA規約第5条に基づき、協力会員(個人:年会費12,000円)を募集いたします。つきましては、皆様ご自身、また、周囲の方で、世界宣教に重荷を持つ個人の方の積極的な入会をお誘い申し上げます。入会ご希望の方は、JOMA事務局まで、お問い合わせ下さい。(e-Mail: office@joma.jp)

(参考)JOMA規約 第5条の2: 協力会員とは、個人において世界宣教に重荷を持ち、JOMAの活動に協力及び支援をする者とする。総会にはオブザーバーとして参加し、議決権、選挙権および被選挙権を持たないものとする。

なお、引き続き正会員としての加盟団体も募集いたします。海外宣教をおこなっている宣教団体、教派団体が、共に主に在って一つの戦いを勝ち取るために、より強固なネットワークを構築すべく、もし未加入の団体をご存じの場合は、積極的な入会をお誘い下さい。

今後も引き続き、お祈りをお願いいたします。

総会のご案内

下記のようにJOMA総会を開催いたします。正会員の加盟団体の方は事務局よりご連絡をいたしますので、ご参加下さいますよう、お願い申し上げます。

記

日時: 2018年4月24日(火)

場所: OCCビル 811号室

プログラム: 11:00 ~ 12:30 セミナー「JOMAの過去・現在・未来」(オープン)

前半: JOMAの過去・現在・未来

パネリスト 稲垣博史氏・酒井信也氏・長田栄一氏

後半: JOMAの今後を考える(フリーディスカッション)

12:45 ~ 13:30 昼食と交わり

13:30 ~ 15:30 総会

以上

◇ JOMA 事務局だより ◇

私がJOMA事務局に奉職させていただいてから、早くも半年が過ぎました。その間に上半期の会計報告、2回のJOMA通信の発行を経験いたしました。それらの業務を通じ、あまりにも自分が海外宣教について知らなかったこと、また、多くの祈りに支えられたJOMA加盟各団体と宣教の地にある先生方の様々な戦いがあることを教えられました。

年が明けてからは、許されて「宣教におけるアドミニストレーション」に始まるOBI(お茶の水聖書学院)の「実践神学各論」5回シリーズを受講させていただきました。この講座は、教会や宣教団体の事務担当者が知っておくべき、法、会計、労務を含む、事務管理業務について、実践的に教示頂くものでした。「実践的」というのは、例えば「財務諸表の作り方」といった事のみではなく、その前にどのように判断をしていくか、その判断基準の寄って立つべきところを教えていただきました。

事務担当者として大切な事は、教会のリーダーである先生方(JOMAに適用するならば、宣教師の先生方と、JOMA役員を始めとした送り出す加盟各団体の先生方となりますでしょうか)が、聖書の福音世界を説くことに集中できるようにサポートすることであり、そこにこの世の一般的な方法論を「直輸入」してはならない、と。そのために、事務担当者は「福音世界」と「この世事」のくせめぎ合いに身を投じることが大切だと。それこそが「事務担当者としての献身である」と教えられました。まだまだ、私は力の足りない者であり、これは困難な課題ではありますが、JOMAのために何ができるかを祈りつつ進みたいと存じます。

この観点で見ましたとき、事務局として2018年度はJOMAをより活性化すると共に、宣教の地にある先生方とその背後にある諸教会・宣教団体・教派団体に対し、「連絡協力会」としてよりお役に立つように整備をしていければと考えております。例えば、より情報ネットワークの活用を促進し、同時に加盟して下さる教会・宣教団体を多くして、さらにそのお交わりを強力なものにできればと願っています。

小さきものを用いてくださる事に感謝し、JOMAのこれからの戦いについて、共にお祈りいただきましたら感謝です。

◆事務局メールアドレス変更のお知らせ◆

2018年3月 JOMA事務局 大間哲

新アドレス: office@joma.jp (旧アドレス jomaofficekanda@gmail.com でもしばらくの間は届きます)

先号でもお知らせいたしましたとおり、JOMA事務局の住所も9月より以下になっております。

住所: 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル313

